『おばけやしきをつくろう！』　　5歳児　10月　伏見こども園

段ボールや布で暗い部屋をつくり、ゼリーカップに色を付け懐中電灯で光らせていましたが、ブラックライトで光らせようとすると鮮やかに光りませんでした。Aくん「七夕の時、光る絵の具でかいたよ」と思い出し、ペンの中からどの色ならブラックライトで光るか確認しました。Aくん「おばけやしきにしたいから、透明のシートに絵をかきたい」Bちゃん「黒い所に貼ったら、おばけやしきっぽくなりそう」と、蛍光ペンでシートに絵をかき始めました。段ボールには黒い画用紙を以前に貼っており、おばけがかけると貼っていきました。Aくん「光るペン（蛍光ペン）と普通のペンと両方でかいたらどうなるかな？」Cちゃん「混ぜてかいてみたら面白そう」と、話ながらたくさんおばけをつくっていきました。

どのペンが光ってるかな？（確認）



おばけやしきみたいになってきた（ワクワク、楽しい）



暗くしよう（やってみよう）



ドアをつくろう（やってみよう）



おばけやしきって分かるように看板をつくろう（やってみよう）



光って見えるかな？（確認）



光って見えた（嬉しい）



数日後、Dくん「段ボールを立ておばけやしきみたいに暗くしたい」と、みんなで暗い部屋をつくり始めました。保育者が見にいくとEちゃん「暗くておばけやしきみたいになったやろ？」Ⓣ「入ったらすぐにおばけがいっぱいいるんだね」と言うと、Eちゃん「おばけやしきって迷路みたいになってて進んだらおばけがたくさん出てくるよね」と、周りにいた友達に伝えました。Eちゃんの言葉を聞き、「じゃあもっと段ボールつなげよう」「おばけやしきって看板もいるよ」と話し、さらに段ボールを持ってきてドアや看板をつくりました。

「できた！」とみんなで中に入ると暗く、かいたおばけがブラックライトで光り「このおばけ笑ってる」と楽しんでいましたが、段ボールで密閉感があるため中が暑く、CちゃんとEちゃんと保育者が「暑いね」と話していると、Fくんが「おばけやしきって寒くない？」と言い始めました。Aくん「寒くするってどうするんだろう？」と考え始めたところで片付けになったため、次回に持ち越す課題が見つかったところで片付けをしました。

子どもの育ちや学び

・今までの経験からどのペンがブラックライトで光るのか友達と一緒に確認をする。
・遊びを進めていく中で『おばけやしき』のイメージを共有し、どのように進めていくのか、必要なものは何か、友達と会話を通して考えたり、一緒につくったりする。
・つくってみてみんなで確認しながら「もっと～しよう」と出し合い、次に活かそうとする。

保育者の思い

・1 学期から光遊びを楽しんでいましたが、“ゼリーカップを光らせて楽しむ”という姿から次になかなか進みませんでした。しかし、いつか「～したい」という思いが出てくるだろうと、長期間待ち続け見守るようにしていました。
・ブラックライトではどの色が光るのか確認したり、『おばけやしき』のイメージを共有したりし、たくさん会話を通して遊びを進めていこうとする姿がとても印象的でした。
・始めは数人で遊んでいましたが、友達同士の会話が聞こえ面白そうと遊びに入ってくる子どもが増えました。大人数で遊んでいた為、思いもぶつかるだろうと思いましたが、互いの思いを受け入れ「じゃあこうしよう」と、アイデアを出し合って協力しながら遊びを進めていく姿に5歳児らしさを感じました。ここには、数人の会話しか出ていませんが、10 人以上の子ども達が一緒に考えて遊んでいました。

家庭だったら・・

相手の思いを受け入れ、一緒に考える姿や協力して取り組む姿が多くなったと感じる時はありませんか？子ども達のそのような姿を十分に認めてあげたいですね。

子ども達は「おばけやしきは寒い」というイメージをもっています。保護者の方なら遊びの中でどのように部屋を寒くしますか？ご家庭でも子ども達と一緒に考えてみてくださいね。